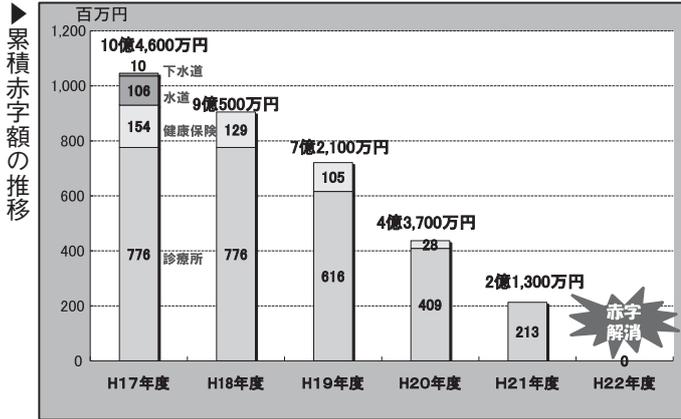


開催日時・場所等

月日	会場	対象地域	参加者数
1月24日(月)	入舸会館	入舸町	10名
	日司生活改善センター	日司町	10名
1月25日(火)	神岬会館	神岬町	13名
	来岸会館	西河町・来岸町	12名
1月26日(水)	婦美会館	婦美町・野塚町丸山	18名
	幌武意老人寿の家	幌武意町	12名
1月27日(木)	余別地区コミュニティセンター	余別町	19名
1月31日(月)	総合文化センター	美国町	7名
2月1日(火)	野塚克雪管理センター	野塚町	33名
6日間	9会場	11地区	134名

# 「町長室」出前懇談会 を開催しました

## 「財政再建」と 「公共・行政サービスの水準維持」 の両立 「町の再生」 に町ぐるみでの取り組みを



しかし、一方で少ない基金を取り崩し、赤字額の解消に充てたことから、平成21年度末での積丹町の基金残高は、1億2,600万円と道内で最も少ない基金残高となっております。他町村との財政力格差はますます拡大しています。

1月24日から2月1日まで、町内9会場で平成22年度「町長室」出前懇談会を開催し、合計134人が参加しました。今回の懇談会では、主に「町の財政状況」や「町の主な施策事業等の状況」、「まちづくり活動支援基金の創設」についての説明を行いました。

平成17年度末に10億4,600万円を有した累積赤字は、歳出の抑制や国の臨時交付金の活用、地方交付税の横ばい傾向などにより平成22年度末での全額解消を見込んでいます。

累積赤字解消後の財政課題  
道内最少の基金残高

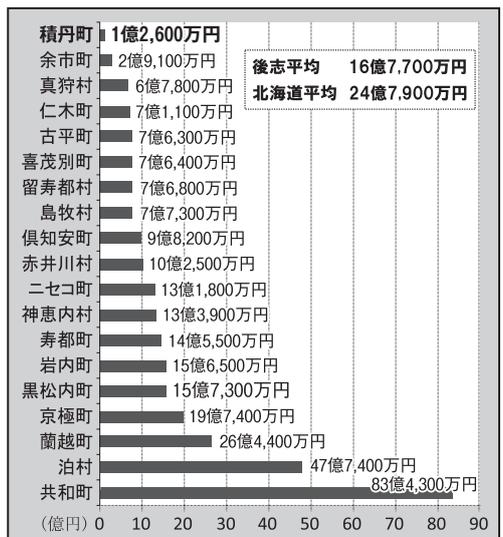
### こんな質問・意見がありました

- **除排雪**
  - 大型の除雪機などを地域に設置してくれば自分たちでやることもできる。
  - 降雪前に除雪受託者が下調べを行うなどして効率よく除雪作業を実施してほしい。
- **財政・税金**
  - 赤字は今後発生することはないのか。
  - 町税の滞納処理はどのように行っているのか。
- **上下水道**
  - 将来的に下水道を全町に整備する考えはあるか。
  - 下水道の普及率はどうか。
- **教育**
  - 学校は小さくても良い教育環境をつくるのが大切。統合ありきではない話し合いをしたい。
- **議会関係**
  - 議員はもっと懇談会に参加するべき。

新たな町の再生を目指す上で、

### 知恵と努力を結集 地域のまちづくり活動への参画を！

町ではそのための支援制度を創設し、平成23年度からスタートすることとしています。



大切なことは、これまでの行政主導型・完結型でなく、町民や団体、職場、地域が自らまちづくり活動に参画し、様々な知恵や努力をいかに結集できるかにかかっています。

# 災害時孤立集落救援 対応訓練を実施

## —関係機関の初動体制の 迅速な確立と連携強化—



▲午前9時10分 災害の発生により関係機関へ派遣支援要請する松井町長



▲午前9時15分 建設課長の指揮により町内の被害状況の確認を行う町職員



▲午後1時00分 美国漁港沖合の洋上で待機する小樽海上保安部巡視船「ほろべつ」(右)



▲午後1時50分 関係機関合同指揮所を設置



▲午後3時20分 訓練終了後の総評会議

町では災害発生時の初動態勢を迅速かつ確実に行うため、2月10日に小樽海上保安部や陸上自衛隊第11特科隊、海上自衛隊余市防備隊、小樽開発建設部、後志総合振興局など、国や道の15の機関から154人の参加を得て「積丹町災害時孤立集落救援対応訓練」を行いました。

半島の先端に位置する積丹町では、陸路と空路が遮断した場合に町の全てが孤立状態となることが懸念されています。

今回の訓練は、国や道の関係機関の現地情報連絡員がいち早く現地に入り、被災地での災害救助活動のための初動体制の迅速な確立と関係機関相互の連携

機能の強化に役立てることを目的に実施されました。

訓練は、町全域での集中豪雨により国道229号が美国町小泊地区で地滑り、神岬町沼前地区で崖崩れが発生し交通が途絶。美国川では、氾濫危険水位の12・49mに達したとの想定で行われました。

午前8時30分に松井町長を本部長とする積丹町災害対策本部を設置。関係機関へ非常事態の発生による災害派遣要請を行うとともに、町職員は、被災状況の確認や住民避難誘導を想定した訓練を行いました。

全道で初となる孤立集落の救援を目的とした海上訓練で

は、陸路の不通により海上から人員と機材を搬入するため、小樽海上保安部の巡視船ほろべつ(230トン)と海上自衛隊余市防備隊のミサイル艇わかたか(200トン)が美国漁港沖合の洋上で待機する姿を見せました。

悪天候により船舶での上陸を中止し、陸路で来町した関係機関は、町総合文化センターに急行し指揮所を設置。道路や河川、人命救助などそれぞれの役割のなかで迅速な復旧活動を行うための初動体制の確認を行いました。

陸路が途絶えた町の孤立の長期化は、日常生活用品や食糧品の確保、急患、腎臓透析者の病

院への搬送、農水産物の出荷、郵便物等の配送、町外への通学、通勤者及び急用者、町外者の送迎など、陸路の復旧までに様々な緊急を要する事態が発生します。

町ではこうしたことへの迅速な対応のため、昨年20年ぶりに見直しを行った「積丹町地域防災計画」の適切な運用と日頃からの関係機関との連携強化を図ることとしています。

訓練終了後の総評会議では、孤立化した場合に大きな役割を果たす漁港の整備についての課題や訓練の定期的な開催を望む意見が出され、町では今後、住民参加による訓練の実施を計画しています。